

## 役割演技を取り入れる際の留意点

後藤忠

### 1 表現活動としての役割演技の特質

役割演技について「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」には疑似体験的な表現活動として若干触れられているが、前の「小学校学習指導要領解説 道徳編」には次のように解説されていて、むしろこちらの方が分かりやすいので引用する。

児童が表現する活動の方法としては、発表したり書いたりすることのほかに、児童に特定の役割を与えて即興的に演技する工夫①、動きやせりふの真似をして理解を深める工夫②、音楽、動作、表情などで自分の考えを表現する工夫などがよく試みられる。低学年では、児童が人形やペープサートなどを手に持って演ずることも効果的である。更に、実際の場面の追体験、実験や観察、調査等について表現物を伴った学習活動も実感的な理解につながり、効果的である。(88 ページ)

上記で述べられている「児童に特定の役割を与えて即興的に演技する①」のが**役割演技**で、「動きやせりふの真似をして理解を深める②」のが**動作化**である。

言い換えるならば、**役割演技**はある状況や場面において児童生徒が感じたことや考えたことを即興的に表現するものであり、**動作化**は児童が教材の筋書きどおりに演ずることを通して、そのときの登場人物の心情などの理解を深めるものである。この二つは技法として似てはいるが、指導の意図や効果は全く違うので注意したい。

もともと、**役割演技**はブカレストに生まれた精神科医モレノ(Moreno,J,L)が臨床医学における集団心理療法の一つとして創案したものである。やがてそれは教育相談やカウンセリングの手法として活用されるようになり、現在では道徳授業の指導法の一つとして、多くの学校で取り入れられている。

役割演技を活用した指導は、児童生徒が演技的な表現活動を通して道徳的価値の理解を深め、道徳的気分などを豊かにする指導法のひとつである。つまり、ある場面・状況において自己を特定の役割に投入し、具体的な表現活動を通して、道徳的な感じ方や考え方を深めるものである。

役割演技は筋書きやシナリオのない、児童生徒が創造性をもって作り上げていくドラマといえる。したがって、指導に当たっては児童生徒の自発性を尊重し、児童生徒がのびのびと思いのままを表現できるようにしていくことが大切である。こうした配慮の下での役割演技を通して児童生徒は、

- ※ 登場人物になりきり会話できるので、意見や考えが言いやすくなる
- ※ 相手の刺激を受けて即興的に反応しなくてはいけなないので、自ずから本音で語ることになる
- ※ 役割交代をすることで相手の立場も体験できる
- ※ 動作などを伴う表現活動なので、授業に変化がでて楽しいし、全身で感じることもできるなどの学習効果を味わうことになる。

一方、教師の側からしても児童生徒理解に役立つという効果がある。役割演技には即時即興的な反応が求められるので、日常生活で培われてきた児童生徒の本音が出やすくなる。その中に、児童生徒がいつも抱えている不安や悩み、葛藤などが表れやすくなる。教師はそうした問題をよく把握し、道徳授業だけでなく生徒指導全般に生かしていくことができる。

### 2 役割演技の指導のポイント

役割演技が効果的に行われるためには、指導上留意しなければならない点がある。

#### (1) 日頃の学級経営で留意すること

- 「演技の上手下手は問題ではない」ことを児童生徒によく理解させる

演技のやり方がおかしいと笑われたり、上手下手を批評されたりすると演技をする意欲を失ってしまう。勿論、教師は演技の上手下手に関することは言うてはならない。

- 演技を茶化したり笑ったりしない人間関係作りをし、安心して演技できる雰囲気をつくる
- 普段から人の考えや話を真剣に聞こうとする態度や雰囲気を育てる  
真剣に学び合う雰囲気があると、軽薄なうけねらいやふざけがなくなっていく。

## (2) 道徳科の授業で留意すること

教材に関わる学習活動で役割演技を取り入れると効果的な場面（状況）は、およそ 2 通りある。一つは「登場人物が深く迷い、葛藤する場面」。もう一つは「登場人物の会話などがあまり詳しく書かれていない場面、あるいは教材の続きを自由に作っていくことができる場面」である。

その指導に当たっては、

- **場面設定と演者の役割をはっきりさせておく**  
いつ、どこで、誰が、どんな状況にあるのかをはっきりさせておくことが大切である。  
ex 1: 『手品師の心の中では、(A)大劇場のステージにスポットライトを浴びて立つ自分の姿と、(B) さっき会った男の子の顔が浮かんでは消え、消えては浮かんでいました』という場면을役割演技でやってみましょう。』  
ex 2: 『二羽の小鳥は心からお誕生日のお祝いをしました。』と書いてありますが、さて、どんなお祝いをしたでしょう？ミソサザイとヤマガラになってお誕生日のお祝い会をしましょう。』
- **役割演技の「スタート」と「終わり」の合図を明確に示しておく**  
誰から始めるのか、スタートや役割交代、終わりの合図はどんな合図かなどを明確にしておく。
- **言葉ではリアルに演技しても、行動は激しくしてはいけない**  
殴ると蹴るとか、髪の毛を引っ張るなどの行為は絶対にさせてはならない。安心安全の確保や人権尊重の指導の視点から役割演技の基本的なルールとして徹底しておく。
- **役割交代をする**  
先にも触れたが、役割演技の大きな効果として相手の気持ちや立場に立つことができることが挙げられる。とりわけ役割交代をすることで一層相手の気持ちや立場を理解することができる。役割交代をしないで一方の体験だけで終わってしまうと、役割演技の効果が半減してしまう。
- **演技そのものに注文を付けてはならない**  
演技指導ではないのだから、「もっと感情を込めて」とか「もっと大きな声で」など演技の注文はつけてはならない。また、児童生徒の演技に対して「そんなことはないだろう」「そんなことは言わないだろう」などと批判してはならない。どんな演技も肯定的に受け止め、理解し、認めるという姿勢が大切である。
- **「見るより、させろ！」役割演技**  
役割演技は「見る」より「する」方がずっと学習の意味がある。児童生徒が一斉に演ずることができる工夫をしよう。その際、効果的な人数に十分留意すること。
- **役割演技のやり方（見本）を見せる**  
役割演技の初期の指導段階では、一斉に始める前に誰か代表にやり方の見本を示してもらおうとよい。
- **小道具を利用する**  
特に小学校低学年においては、役割演技に興味をもたせたり、積極的に登場人物になりきらせたりするために、簡単な舞台装置や小道具を利用するとよい。例えば、お面、帽子、エプロン、ペーパーサート、役割カードなどを用意すると役割を意識しやすくなる。
- **教師は助言者、支援者に徹する**  
教師は役割演技で指導意識をむき出しにしないことが大切である。ことさらに道徳を意識させたり、善悪の立場から役割演技をさせたりすると、道徳的価値の追求や内面化が図れなくなる恐れがあるので留意したい。教師は常に演者に寄り添い、演者の支援に徹し、専ら児童生徒への賞賛と激励に努めたい。